

令和7年度 第6回政策推進会議報告

日 時 7月17日 9時30分～10時10分

場 所 WEB会議室

出席者 17人

1 良質な住宅・住宅地の誘導に向けた仕組みづくりに係る「市民意見聴取に係る施策の概要」及び「政策形成プロセス計画書」の公表について

都市整備局長から資料に基づき報告。（以下、質疑等）

- （市長）住宅施策については、住宅アドバイザリーボードを設け、「住まいと暮らしのための計画」などに基づき、空き家対策も含めて議論を進めてきた。現在実現している施策として、他市からの市内転入を促進するための住み替え補助などの予算措置や、空き家対策のための登記や解体を進めていくための支援策が講じている。なお、今回説明された取り組みは、予算補助以外の様々な制度等について踏み込むものであり、もう少し長い時間をかけて、まちづくりをどう進めるか、特に計画の方向性3にある質の高い住宅供給をどうやって実現していくのかというところに焦点を当てた大変大きな取り組みである。

また、都市整備局では、特にファミリー世帯を想定した理想的な住宅環境（緑の量や住宅の質そのもの）を整理しており、今後は、例えば大規模公共用地が住宅へ転換される場合に、その理想を実現できるような条件で宅地を販売・公募していくことになる。これと併せて、民間での土地の中で地区計画等を策定する際にも、都市計画部の開発指導課等々の開発指導行政において、こうした理想の住宅に近づけるための実現を図っていく。大きな割合を占める民間住宅の投資について、行政が完全に民間に任せ、理想や思いを伝えないというわけではなく、不動産業界の方々ともコミュニケーションを取りながら、本市が目指すまちづくりの思いを共有していくことで、具体的な制度基準等の見直しや、相談できる環境作りも進められることができ、これは包括的な制度基準に踏み込んだ議論となることから、都市整備局だけでなく、まちのイメージと大きく関連するため、各局も情報収集し、都市整備局が目指すまちづくりを検討している状況を掴んでほしい。

2 令和6年度企業会計決算の概要等について

公営企業管理者から資料に基づき報告。

3 その他

○総合政策局長から、みんなのサマーセミナー開催について説明。

○総合政策局長から、A-LAB Exhibition Vol.48 「SUMMER FACTORY」 の開催について説明。

○総合政策局長から、ひょうご・ヒューマンフェスティバル 2025in あまがさき説明。

○総務局長から、ばいたり値いの取り組みについて説明。

○教育次長から、巡回展「価値の手直し展」の開催について説明。

○教育次長から、企画展「にっぽん博覧会ものがたり 後期・現代編」の開催について説明。

- （市長）博覧会は時期に応じた取り組みであり、ぜひ見に行ってほしい。この人と自然の博物館との共催の取り組みは、歴史博物館に関わってから初めて見たような気がするが、定期的にやっているのか。

- （教育次長）今回そのテーマがアップサイクルということでもあり、人と自然の博物館で、これまでファンでやられたり、各地で巡回展として実施されている。また、歴史博物館自体が廃校を活用した場所であることから、歴博側でも協力して実施したいとの声があったと聞いている。

- ・（市長）非常に面白い視点である。博物館をある種のプラットフォームとして考えると、職員が自分たちの博物館だけを使って企画展をやるのではなく、いろんな博物館と連携することで、異なる視点などが生まれてくる気がする。例えば、人と自然の博物館のこのアップサイクルという思想は、尼崎の歴史博物館からはなかなか生まれない発想だと思う。神戸や兵庫県と組むことによって、開催場所は尼崎だが、全然違う方の視点が入ってくるというのは、これから地域の博物館の発展を考えいくと、非常に大事な視点である。抱え込むのではなく、いろんなところと連携し、年に1回くらいは外部の団体等と連携した企画展を考えるのも面白いと思う。
- ・（教育次長）今回は、常設展や企画展すでに部屋が埋まっていたため、普段市民の方が休憩するガイダンス室で企画展が実施されている。こうした新しいことをすることで、これまで歴博に来ていただけなかった層の方も、おそらく来ていただける良いきっかけになるのではないかと考えているので、今後も、他との共催を組み入れていきたい。

以上